

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 64-017113

(43)Date of publication of application : 20.01.1989

(51)Int.Cl.

G06F 3/023

G06F 3/033

G06F 15/20

(21)Application number : 62-172638

(71)Applicant : MICRO JOHO KEIKAKU KK

(22)Date of filing : 10.07.1987

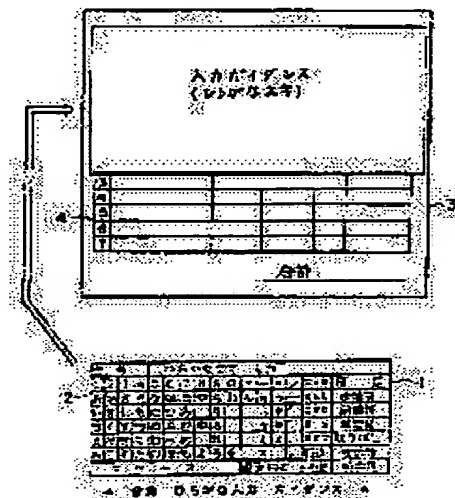
(72)Inventor : ISHIZUKA MASAKAZU

(54) INPUT METHOD FOR WORD PROCESSOR, COMPUTER OR THE LIKE

(57)Abstract:

PURPOSE: To enable even a user who is unfamiliar with operations of a key board to quickly perform the input operations by displaying the input guidance showing characters, codes, the numeric characters, etc. on a screen.

CONSTITUTION: When three keys, i.e., a CTL key, a SHIFT key and an XFER key are pushed at one time on a keyboard, an input guidance 1 is shown on a display screen 3. The guidance 1 includes KATAKANA (square form of Japanese syllabary) of en, the English capital letters of em, etc. A pointing cursor 2 of the guidance 1 is moved every frame with push of a keyboard arrow key. Thus a desired character is pointed out with movement of the cursor 2. Then the character pointed by the cursor 2 is selected with push of a return key of the keyboard. This selected character is displayed at the position an input position pointing cursor on the display screen. These operations are repeated for the sequential input of desired characters.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2000 Japan Patent Office

⑫ 公開特許公報(A)

昭64-17113

⑪ Int. Cl.⁴

G 06 F 3/023
3/033
15/20

識別記号

3 1 0
3 8 0
3 0 1

庁内整理番号

L-8724-5B
R-7927-5B
B-7218-5B

⑬ 公開 昭和64年(1989)1月20日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全7頁)

⑭ 発明の名称 ワープロ、コンピューターなどの入力方法

⑮ 特 願 昭62-172638

⑯ 出 願 昭62(1987)7月10日

⑰ 発 明 者 石 塚 雅 一 群馬県高崎市岩押町5-24 マクロ情報計画株式会社内

⑱ 出 願 人 マクロ情報計画株式会 群馬県高崎市岩押町5-24
社

⑲ 代 理 人 弁理士 小林 正治

明細書

1. 発明の名称

ワープロ、コンピューター
などの入力方法

2. 特許請求の範囲

(1) 文字、符号、数字などが表示されている入力ガイダンス1と、指示カーソル2とをワープロ、コンピューターなどの表示画面3上に表示し、その指示カーソル2をワープロ、コンピューターなどのキーボード或はマウスなどにより移動させて、入力ガイダンス1のうち入力したい文字、符号、数字などを指示し、指示された文字、符号、数字などを上記のキーボード或はマウスなどの操作により選択し、それを変換して或は無変換のまま入力するようにしたことを特徴とするワープロ、コンピューターなどの入力方法。

(2) 入力ガイダンス1の入力文字がひらがな或いはカタカナであり、そのひらがな或いはカタカナがあいうえお順或いはいろは順に配列されている特許請求の範囲第1項記載のワープロ、コンピ

ューターなどの入力方法。

(3) 入力ガイダンス1の入力文字が英小文字であり、その英小文字がa b cの順に配列されている特許請求の範囲第1項記載のワープロ、コンピューターなどの入力方法。

(4) 入力ガイダンス1の入力文字が英大文字であり、その英大文字がA B Cの順に配列されている特許請求の範囲第1項記載のワープロ、コンピューターなどの入力方法。

(5) 入力ガイダンス1が表示画面3の一部に表示され且つ上下に移動できるようにした特許請求の範囲第1項記載のワープロ、コンピューターなどの入力方法。

(6) 入力ガイダンス1が表示画面3に表示されている他の画面4にオーバーラップして表示するようにした特許請求の範囲第1項記載のワープロ、コンピューターなどの入力方法。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明はワープロ、コンピューターなどの入力

方法に関するものであり、ワープロやコンピューターなどの表示画面（例えばCRTや液晶画面）に文字、数字、記号などを、あいいうお順、いろは順といったように並にもすぐに解る配列で表示し、その文字、数字、記号などのうち必要なものを選択して入力できるようにしたものである。

（従来技術）

ワープロ、コンピューターなどの入力は通常キーボードから行なわれている。キーボードのキーはJIS規格に基づいて配列されているのが一般的であり、一部にそれ以外のものもある。

（従来技術の問題点）

従来のキーボードでは慣れない人にとってはキーを探すのに時間がかかり、入力に時間がかかる。またキーの配列を覚えるまでに時間がかかるので、使うのが途中でいやになり、せっかく購入したワープロやコンピューターが使用されずに放置されているといったこともある。

（発明の目的）

本発明の目的はキーボードからの入力に慣れて

いない人でも手軽に、しかも迅速に入力できるようにすることにある。

（問題点を解決するための手段）

本発明は第10図のように、文字、符号、数字などが表示されている入力ガイダンス1と、指示カーソル2とをワープロ、コンピューターなどの表示画面3上に表示し、その指示カーソル2をワープロ、コンピューターなどのキーボード或はマウスなどにより移動させて入力ガイダンス1のうち入力したい文字、符号、数字などを指示し、指示された文字、符号、数字などを上記のキーボード或はマウスなどの操作により選択し、それを変換して或は無変換のまま入力するようにしたものである。

（発明の作用1）

キーボード併用の場合

本発明の入力方法では入力ガイダンス1として第1図～第7図のように文字の異なる七種類のものが使用される。第1図の入力ガイダンス1は入力文字が全角ひらがな、第2図の入力ガイダンス

1は入力文字が全角カタカナ、第3図の入力ガイダンス1は入力文字が半角カタカナ、第4図の入力ガイダンス1は入力文字が全角英大文字、第5図の入力ガイダンス1は入力文字が全角英小文字、第6図の入力ガイダンス1は入力文字が半角英大文字、第7図の入力ガイダンス1は入力文字が半角英小文字である。

これらの入力ガイダンス1をコンピューターの表示画面3に呼び出すにはコンピューターのシステム（DOS）起動後に、コンピューターのキーボードの“CTRL”キーと“SHIFT”キーと“XFERR”キーの三つのキーを同時に押す。これにより第1図の入力ガイダンス1（全角ひらがな文字）が第10図のようにコンピューターの表示画面3上に表示される（初期の入力ガイダンス1は全角ひらがな文字にしてある）。

この場合、入力ガイダンス1が呼び出される前に表示画面3に他の図4（例えば第8図のような売り上げ伝票図）が表示されていれば、呼び出される入力ガイダンス1は第10図のように他の図

4の上にオーバーラップして表示される。この場合、入力ガイダンス1は表示画面3の約半分の大きさとしてある。入力ガイダンス1の位置は第11図のように下方に移動させることができる。

この場合、キーボードの“SHIFT”キーを押しながら“上矢印”キーを押すと入力ガイダンス1が上に移動し、“SHIFT”キーを押しながら“下矢印”キーを押すと入力ガイダンス1が下に移動する。

入力ガイダンス1が最初に表示画面3に表示されると（初期状態）、指示カーソル2は第10図のように入力ガイダンス1のなかの1の数字を指示するようにしてある。

指示カーソル2はキーボードの“右矢印”キーを押すと右に、キーボードの“左矢印”キーを押すと左に、キーボードの“上矢印”キーを押すと上に、キーボードの“下矢印”キーを押すと下に矢々1枠ずつ移動する。

第10図のように表示画面3に呼び出された入力ガイダンス1（全角ひらがな文字）を他の入力

ガイダンス（例えば全角カタカナ文字）に変えるには、キーボードの矢印キーを押して指示カーソル2を入力ガイダンス1の「次字種」または「前字種」の位置に移動させ、キーボードの“リターン”キー又はスペースバー（以下単に“リターン”キーと記す）を押す。これらを押す度に第1図～第7図の各種の入力ガイダンス1が表示画面3に順次表示される。表示画面3に希望の入力ガイダンス（例えば全角カタカナ文字入力）が表示されたところで“リターン”キーを押すのを停止すると、その停止時の入力ガイダンスが表示画面3に表示されたままとなる。

第10図のように表示画面3に表示された入力ガイダンス1から必要な文字や数字などを選択して、例えば、第10図の入力ガイダンス1の下の上伝票図4（第8図）の宛名欄5に第9図のように「山田太郎」と入力するには次のようにする。

①．キーボードの矢印キーを押して指示カーソル2を移動させて入力したい文字を指示する。

これによりキーボードから「やまだ」とひらがな入力し、それを「山田」と漢字変換して入力した場合と同じ入力になる。

②．上記の①～④の操作により「山田太郎」の入力が終了してから、表示画面3から入力ガイダンス1を消去するには、キーボードの“CTRL”キーと“XFER”キーとを同時に押す。入力キーボード1が消去された後の表示画面3は第9図のように売り上げ伝票図4だけが残る。この図4には第9図のように宛名欄5に「山田太郎」の文字が入力されている（第8図の図4には表示されていない）。

なお、上記④の操作において入力ガイダンス1から入力位置指示カーソルの位置に表示されているひらがな（例えば「やまだ」）を漢字変換せずにそのまま入力する場合は、キーボードの矢印キーを押して指示カーソル2を入力ガイダンス1の「確定」の位置に移動させ、そこでキーボードの“リターン”キーを押せばそのまま「やまだ」とひらがなで入力される。

③．キーボードの“リターン”キーを押して指示カーソル2で指示された文字（例えば「や」という文字）を選択する。その文字は表示画面の入力位置指示カーソル（コンピューターの表示画面に表示されている通常のカーソル：ここでは指示カーソル2と区別するために入力位置表示カーソルと記す）の位置に表示される。

④．上記①②の操作を繰り返して必要な文字（例えば「やまだ」）を順次入力位置指示カーソルの位置に表示する。

⑤．入力位置指示カーソルに表示されたひらがな「やまだ」を漢字に変換するときは、キーボードの矢印キーを押して指示カーソル2を入力ガイダンス1の「次候補」の位置に移動させ、“リターン”キーを押すと、入力位置指示カーソルの位置に表示されている「やまだ」の読みに該当する漢字が順次表示される。正しい漢字が表示されたところで指示カーソル2を「確定」の位置に移動させて“リターン”キーを押すと「山田」と漢字変換される。

（発明の作用2）

マウス併用の場合

本発明ではキーボードの代りにマウスを使用し、指示カーソル2を移動させることもできる。指示カーソル2の移動はマウスを上下左右に移動させることにより行なわれる。

入力ガイダンス1からの文字、数字などの入力及び入力ガイダンス1における各項目（「前候補」、「次候補」など）の選択はマウスの左ボタンを押すことにより行なわれる。

また、マウスの左ボタンを押しながら右ボタンを1回押すと先に入力されたひらがな成はカタカナに半濁点が、2回押すと濁点が付加される（ひらがな入力及びカタカナ入力の時のみ）。

マウスの右ボタンを1回押す度に、指示カーソル2は入力ガイダンス1における数字「1」と「確定」の間を交互に瞬時に移動する。

（実施例）

第1図～第7図は本発明における入力ガイダンスの各種の例である。

この図において「1」～「0」の数字はキーボードのテンキーに、「スペース」はキーボードのスペースキーに、「TAB」「DEL」「INS」「BS」「RET」の各項目は夫々キーボードのTAB、DEL、INS、BS、RETキーに相当する。

第1図～第7図の全角、半角は入力される文字の大きさを示しており、ひらがな文字、カタカナ文字、英大文字、英小文字は入力される文字の種類(字種)を示している。

第1図の入力ガイダンス1における「あいうえお・・・」は左から縦にあいうえお順に配列されている。

第2図、第3図の入力ガイダンス1における「アイウエオ・・・」は左から縦にアイウエオ順に配列されている。

第4図～第7図の入力ガイダンスの英文字「a b c・・・」「A B C・・・」は左から横にa b c (A B C)の順に配列されている。

第1図～第7図の入力ガイダンス1における「

ボタン(以降単に「リターン」キーと記す)を押すと漢字が順次表示され、指示カーソル2を「前候補」に合せてから、キーボードの「リターン」キーを押すと漢字が「次候補」の場合と逆の順に表示される。

「確定」は入力位置指示カーソルの位置に入力する文字、数字、漢字などを確定するものである。この場合は、漢字変換した後で指示カーソル2を「確定」に合せてから、キーボードの「リターン」キーを押すと漢字が確定され、その確定した漢字が入力位置指示カーソルの位置に入力される。

「無変換」は一旦漢字変換されたが未だ確定されていない漢字をひらがなに戻すためのものである。この場合は、指示カーソル2を「無変換」に合せてからキーボードの「リターン」キーを押すと漢字がひらがなに戻る。

「取り消し」は入力した文字を確定前に取り消すためのものである。この場合は、指示カーソル2を「取り消し」に合せてからキーボードの「リ

画面移動」「確定」「次候補」「前候補」「無変換」「取り消し」「次字種」「前字種」「前進」「後退」の各項目はいずれの図のものも同じものである。

これらの項目のうち「画面移動」は第10図のように表示画面3の約半分に表示されている入力ガイダンス1を、第11図のように上下に移動させるものである。

この場合、指示カーソル2を「画面移動」に合せてから、キーボードの「リターン」キーを押すと、押す度に入力ガイダンス1が表示画面3の上下に移動する。

「次候補」は入力された文字を漢字変換する場合に、その文字の読みに対応する漢字が数種類ある場合、それらの漢字を前のものから後のものへと順次表示させるものである。「前候補」はそれらの漢字を「次候補」の場合と逆の順に表示させるものである。これらの場合は、指示カーソル2を「次候補」に合せてからキーボードの「リターン」キー又はスペースバー、あるいはマウスの左

ターン」キーを押すと入力された文字が取り消される。

「次字種」及び「前字種」は第1図～第7図の入力ガイダンス1の入力文字の種類(字種)を選択するものである。「次字種」は表示画面3に表示されている入力ガイダンスから後ろの入力ガイダンスへと順次表示するものであり、「前字種」は「次字種」の場合とは逆に表示画面3に表示されている入力ガイダンスから前の入力ガイダンスへと順次表示するものである。この場合は、指示カーソル2を「次字種」に合せてからキーボードの「リターン」キーを押すと入力ガイダンスが上記したように順次表示され、指示カーソル2を「前字種」に合せてから「リターン」キーを押すと入力ガイダンスが逆方向に順次表示される。

「前進」は入力位置指示カーソルを表示画面3の入力方向に移動(右移動:前進)させるものであり、「後退」は入力位置指示カーソルを表示画面の入力方向と反対方向に移動(左移動:後退)させるものである。この場合は、指示カーソル2

第11図 図面の浄書(内容に変更なし)

手続補正書

昭和62年9月³日

特許庁長官 殿

1 事件の表示 特願昭62-172638号

2 発明の名称 ワープロ、コンピューター
などの入力方法

3 補正をする者
事件との関係 特許出願人

名称 マクロ情報計画株式会社

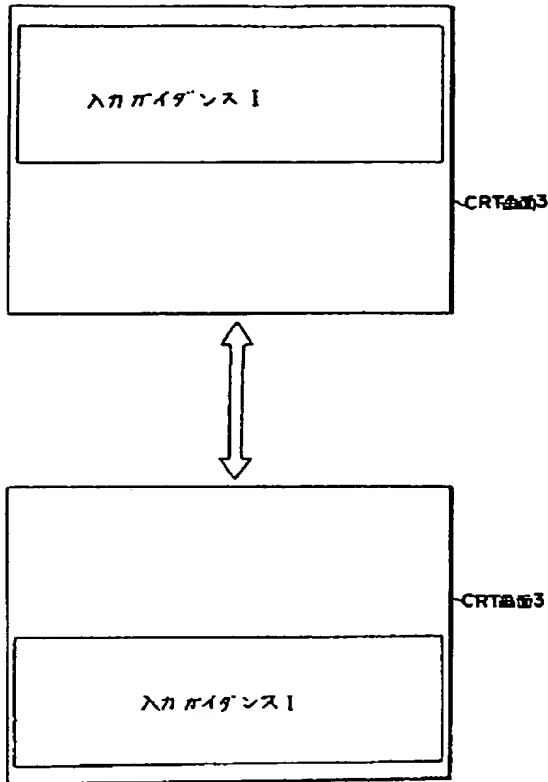
4 代理人 〒101 田03-866-3327
住所 東京都千代田区岩本町3-4-5

氏名 (7636) 弁護士 小林 正 治

5 補正命令の日付 自 発

6 補正の対象 図面第8図~第11図

7 補正の内容 図面の浄書(内容に変更なし)
別紙の通り



特許庁
昭和62.9.3

THIS PAGE BLANK (USPTO)